

## 辛丑年 牛を描く

2021年1月9日(土)ー2月7日(日)

令和3年は丑年にあたります。牛は古くから家畜として飼育され、農耕や運搬を助けるなど、人々にとって大変身近な存在でした。のんびりとして愛らしいその姿は、日本の絵画の中にもしばしば登場します。新年を寿ぎ、近世・近代の日本画から牛を描いた作品をご紹介します。



橋本関雪《相牛図》 大正14年(1925) 個人蔵

## 江戸の南画

2021年1月9日(土)ー2月7日(日)



江戸も中期になると、国内外の様々な刺激を受けた個性豊かな絵師たちが登場します。なかには中国・南宗画の影響のもとに独自の新しい様式を追求した人々もいました。彼らの絵は南画もしくは文人画と呼ばれます。本展では館蔵・寄託の作品から江戸時代の南画をご紹介します。

岡田米山人《松竹梅図》  
江戸時代・文化14年(1817) 本館蔵

## 磁州窯の陶枕

2021年1月9日(土)ー2月7日(日)

磁州窯系諸窯は、宋～金時代にかけて華北一帯で隆盛した、中国で最大規模を誇る民窯です。陶枕は、その代表的かつ特徴的な器種の一つです。日本では初夢に見ると縁起がよいものとして「一富士二鷹三茄子」という句がよく知られていますが、当時の中国の人々はどんな夢を願ったのでしょうか。枕にあらわされた文様からひもといてみましょう。



《三彩 庭園図枕》 磁州窯系 金時代・12-13世紀  
本館蔵(山口コレクション)

## あちこちの風光明媚

2021年1月9日(土)ー2月7日(日)

画家はほんとうに旅が好きです。自然が織りなす清らかで美しい眺めを精神的に歩き、新しい画想を求めて眼前の風景に筆一本で格闘を挑みます。近世絵画と日本洋画から名所・風景を描く作品を寄せ、風光明媚を巡る旅へのご案内します。



伝 雲谷等顔筆《杉桜図屏風》(部分)  
桃山時代・17世紀 個人蔵

## 宮人たちへの鎮魂歌 — 隋の石刻

2021年2月20日(土)ー3月21日(日)



《宮人何氏墓誌》(部分)  
隋時代・大業8年(612)  
本館蔵(師古齋コレクション)

隋朝はわずか37年という短命に終わりましたが、南北朝を統一し唐朝の礎を築きました。書においては楷書の発展史上とても重要な時代で、特筆すべきは墓誌の豊富さとその魅力です。本展では楊帝の宮廷に勤めた「宮人」と呼ばれる女性たちの墓誌を中心にご紹介します。

## 花咲くやきもの REVIVAL!

2021年2月20日(土)ー3月21日(日)

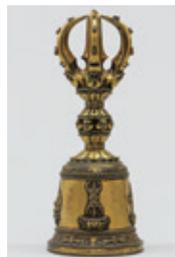
唐三彩、マイセン、富本憲吉など、館蔵・寄託の中から、花をモチーフとした古今東西のやきものを展示いたします。ちょうど1年前、新型コロナウイルス感染症流行のために、わずか6日間で閉幕してしまった展示のリバイバル展です。今度こそ！春めく季節、やきものに咲いた花々をお楽しみください。



《青花 花唐草文鉢》 景德鎮窯  
明時代・15世紀  
「大明宣德年製」銘 本館蔵

## ニッポンのかがやき 本朝金属工芸史

2021年2月20日(土)ー3月21日(日)



重要文化財  
《金銅三昧耶形五鈷鈴》  
平安時代・12世紀  
大阪・高貴寺蔵

銅鐸、銅鏡、仏具、刀装具、そして茶釜。日本の金属工芸の歴史は実に様々なジャンルの作品に彩られます。ここでは館蔵・寄託品から日本の金属工芸品をご紹介します。金・銀・銅・鉄といった素材、精緻な造形や繊細な文様、そしてそれらを可能にした技術など、その多彩な見どころにご注目ください。